

**平成 30 年度全国学力・学習状況調査結果について**

本年度 4 月に中学 3 年生を対象に悉皆の「全国学力・学習状況調査」が実施されました。  
以下本年度調査教科と目的です。

**調査教科：**国語 A（主として知識を問う調査）、国語 B（主として活用を問う調査）

数学 A（〃）、数学 B（〃）

理科（3 年に一度）

各教科や生徒の生活習慣、学習習慣の実態調査

**調査目的：**義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

この調査結果は学力の一部が抽出されたものであり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえた上で、目的に沿って調査によって得られた課題を明らかにし、その改善を図っていくことが調査本来のねらいであると考えております。

学校としましては現在、学力向上に日々取り組んでおります。今回の調査結果を検証し、全国や大阪府の結果と比較検討しながら、さらなる学力向上の取り組みを図ってまいります。保護者の皆様には本校生徒の学力状況についてお知らせするとともに、今後とも学校と家庭で本校教育の推進について共に考えていく一つの資料としてご活用いただければと存じます。個人の結果は既に返却いたしております。

なお、吹田市においても今回実施した調査についての成果及び課題・問題点を市のホームページ上で公表いたしております。

**1. 調査結果の概要****国語 A**

- ① 全体的には大阪府の平均値を下回っている。
- ② 読む能力に関して、やや大阪府を上回っている。
- ③ 無回答率も、ほぼ大阪府平均値より高く、特に意見をまとめる分野において顕著である。

**【課題と解決に向けて】**

漢字の練習を意識づけ、漢字、語句の知識を増やす。

内容を読み取り、わかりやすく言い換えられるように文章を読んで、書く練習を行う。

集中して長文（小説、説明文共に）を読み解く練習を行う。

今回は古文の知識があまり問われなかったが、引き続き古文に慣れさせていく。

**国語 B**

- ① 全体的に大阪府の平均値を下回っている。
- ② 記述式の問題は無回答率が高い。
- ③ 話のあらすじ、グラフの読み取りを記述で説明する問いの正答率が低い。

**【課題と解決に向けて】**

朗読や、新聞活用で読むことに興味関心を持たせ、徐々に難しい内容になれさせていく。

様々な考え方があることを知らせ、自分の意見を持ち、文章にする練習を行う。

できるだけ文章に触れる機会を持たせ、語彙を増やす。

長文に慣れさせ、読み取る時間を短縮できるようにする。

古文、漢文の内容にも慣れさせておく。

**数学 A**

- ① 全体では、全国平均値、大阪府平均値と比べて下回ったもののほぼ同程度の出来であった。
- ② 府平均値を上回っている領域は「図形」である。対して「関数」や「資料の活用」は府平均値よりも下回る。特に「資料の活用」は計算などのように毎年繰り返して（らせん段階的に）学ぶ領域ではないので、一度学んだ部分に対する復習が欠けていると考えられる。
- ③ 観点別では「知識・理解」は府平均値を上回り、全国平均値とほぼ同じであるが、「技能」が下回る。定期考査で問う技能は易問を含めた典型的な出題が多いが、難易度が上がると得点率が上がらなくなるの

で、原因は技能分野のうちの難易度が中・高位の問題に対する慣れが乏しいことにあると分析できる。

#### 【課題と解決に向けて】

比例のグラフの変域など基本の中でもやや難易度の中くらいの出題について、府平均値よりも下回っている。難問よりも中くらいの難易度の問題を繰り返し学習することが大切と考える。また、間違える原因として、理解をしていないのではなく、解答上の小さなミスが定期考査などでも割りあいが多く見られる。課題提出なども慎重に取り組む姿勢が見られない生徒が少なくない。課題量の多さを受け止められない様子が見られるので、勉強に対する積極的な姿勢を育む必要がある。

### 数学 B

- ① 全国平均値、府平均値と比較して、本校は下回っている。
- ② 数学 B においても「関数」と「資料の活用」は全国・府よりも下回るが、その差が A よりも大きい。
- ③ 数学 B では、「知識・理解」の出題がなかったため、得点が低いと考えられる。

#### 【課題と解決に向けて】

時間・速さ・距離などを題材として、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力がたいへん弱い。これは校内実力テストでも同様で、空白が多い出題分野である。全国学力・学習状況調査でも無解答率が高い。文章や言葉を数式化する力をつけることは本校生徒の課題であり、日々繰り返し学習することが大切である。無解答率については教員が重要視し、生徒の基礎学力の定着と解答意欲の向上を目指す必要がある。

### 理科

- ① 全体的には大阪府の平均値を下回っている。
- ② 理科の勉強は大切だと思いますかの質問に対して大阪府の平均値を下回っている。
- ③ 理科の学習が普段の生活の中で活用できるかを考えていますかの質問に対しても下回っている。

#### 【課題と解決に向けて】

- ・理科に関する身近な例を出しながら、理科への関心・意欲を高めていく。
- ・基本の知識や計算問題をもっと練習して様々な問題に対応できるようにする。
- ・普段の授業からもっと身の周りを意識した課題などを設定する。

### 生徒質問紙

この生徒質問は、日頃の子どもの生活習慣や学習習慣について、さまざまな質問からその実態を探るとともに、課題を見つけ、今後の指導に活かしていこうとするものです。本校生徒の特徴的なものをいくつか紹介します。

#### 【学校に対して】

- 「学校の規則を守っていますか」は全国値を下回っている。

#### 【自分自身に関すること】

- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は全国値を上回っている。

#### 【家庭での過ごし方】

- 「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」は全国値を少し下回っている。
- 「新聞を読んでいますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対しては、大阪府の値や全国値を大きく上回っていました。

#### 【読書・家庭学習習慣】

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」は全国値を下回っている。
- 「授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」は全国値とほぼ同値である。

#### 【地域とのつながり】

- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」は全国値を下回っている。

## 2. 今後の取り組み

ここ数年、本校に於いて調査結果が示す学力は向上をしています。基礎・基本の確かな学力の向上、規範意識を高めること、家庭学習の時間を増やして計画的に勉強すること、家族と会話する時間を大切にすることなど、多くの課題が見えてきました。目まぐるしく変動していく社会の中で、幸せに生きていく総合的な生きる力を、家庭と学校と地域が一体となって協働で育成していかなければなりません。これからは情報連携だけでなく行動連携が必要です。今後とも、ご支援・ご協力・ご指導を何とぞよろしくお願いいたします。